いま 現代を生きる私たち

成瀬中学校 小杉 菜々子

8月のある朝、空からキラキラと太陽の光を反射させたものが落ちてきました。始め、人々はその光を美しいと思ったそうです。しばらく眺めていると、その物体は爆発し美しい紺碧の空が一瞬にして漆黒に染まり、約十万人もの人々の未来が奪われました。

あなたは想像できますか。人や家が焼ける匂いを、爆発音とサイレンが響く街を、空襲に怯えながら生きる毎日を、そして大切な人が戦地へ向かう背中を。今の日本で想像できますか。これは、どこか遠い国の話でもおとぎ話でもありません。今、私たちが生きているこの日本で起こった本当の話です。私はこんな事を言っても本や映画で見たことしかありません。人や家が焼ける匂いも、爆発音も、何かに怯えながら生きる毎日も、戦地へ赴く背中も知りません。だからでしょうか、自分でも心のどこかでは本当の事とは信じきれず、想像できません。本当は想像したくもないです。そんな悲惨な出来事は忘れてしまいたいと思っています。

多くの人は無意識に「当たり前」を経験したことがあると思います。朝起きると当たり前のように朝食が置かれていて、学校へ当たり前に行く。時々、「勉強めんどくせー」などと愚痴を零したりしながら友達と笑い合う。家に帰れば温かいお風呂に、愛情の籠もった美味しいご飯。眠りにつく時も安心して布団に入り「明日は何しよう」と考えながら眠りにつく。今の日本は「平和」がよく似合います。では、79年前はどうでしょう。朝起きたら今日を迎えられた事に喜びを感じ、いつでも避難できるように荷物をまとめます。学校でも熱心に勉強し、戦いに備えて知識をつけます。そもそも学校へ行ける子供は少なかったそうです。家へ帰ると家族がいることを確認し来るか分からない明日のために目をつぶる。そんな生活だったと書いてありました。「今と比べれば自由なんてほとんどなかった。勉強も食べ物も言葉も遊びも全部限られて

いた。」この言葉は、子供の頃に戦争を経験した私の恩師の言葉です。恩師は私達にこう言い聞かせていました。「今ある自由に感謝して取り組みなさい。」と。まだ小さかった私は何を言われているのか分からず聞き流していました。でも、歴史の授業で引っかかるのはいつもこの言葉です。私はその真意に少しずつ気付けるようになりました。

そのきっかけとなったのは戦争の映画を見たことでした。まるで悪夢のような描写が私の心を締め付け、これは本物なのだと実感させました。作中で特攻隊の遺書にこんな言葉がありました。「二度と、このような過ちを繰り返さないように後世へ伝えてほしい。」ようやく私は戦争の恐ろしさに気付きました。戦争は多くの人の命を奪うだけではなく、人を変えてしまうのだと。

人にはそれぞれ正義があって自分の正義を守るためには争うこともきっとあると思います。でも、それでも戦争は絶対にやってはいけません。今でも世界ではまだ多くの国で戦争が起きています。帰って来るか分からない人の帰りを少しの希望を胸に待っている家族も大勢います。戦争や紛争でかけがえのない存在を失った人々の悲痛な叫びがこの世界のどこかで今も響き続けています。戦争が生むのは、勝利や喜びではなく、悲しみと憎しみだけです。過去の記憶は時間と共に風化し、そしてまた繰り返します。しかし、あの恐ろしさを決して忘れてはいけません。だからといって今から過去へ戻って戦争を止めることはできません。だからこそ現代^{いま}を生きる私たちにはやるべきことがあります。それは私達の曾祖父母や国のために命を捧げた人々の想いを紡ぎ、後へつないでいくこと。戦争を学びもう二度と繰り返さないこと。そして、今日を生きていることのできる喜びを、当たり前の毎日に感謝して生活することだと思います。そして、それを少しでも世界へ広げることができたのなら、本当の「平和」が生まれると信じています。